

『知る区ロード』について

「知る区ロード」は、東京都杉並区が1988年から始めた防災と地域理解を目的とした散策ルートです。【東の輪】と【西の輪】と呼ばれる二つの輪で構成されるルートは、全長約36kmにわたり、区内の名所旧跡、公園、公共施設などを巡るように設計されていて、歩きながら杉並区の魅力や歴史を知ることができます。(図1)

「知る区ロード」のルートには、「知る区ロード」のマスコットキャラクター『すぎまる』が描かれた直径18cmのプレートが目印として道路上に埋め込まれています。荻窪地域区民センターの前を通る「荻外荘通り」もその一部がルートになっており、センターの前にもプレートが埋め込まれています(写真1)。目印として道路の端にある雨水桝の蓋に「すぎまる」が描かれているところもあります(写真2)。

このルートには「オアシス」と呼ばれる4つの休憩所があり、それぞれが五感をテーマにしたユニークなデザインになっています：

みみのオアシス：竹林の中で自然の音を楽しむ場所(宮前公園 宮前 2-12-18)

ときのオアシス：広島原爆の時間を示す時計盤がある「時」をテーマにした空間

(天沼もえぎ公園 杉並区天沼 3-31-5)

はなのオアシス：香りを楽しむための香楽器や香炉が設置された場所

(コミュニティふらっと阿佐ヶ谷 阿佐谷 2-18-17)

はだしのオアシス：足裏のツボを刺激する石や芝生の上を裸足で歩ける園路

(善福寺さくら公園 善福寺 2-18-12)

荻窪地域エリアにある、「みみのオアシス」から「ときのオアシス」までのルートを歩いてみました(図1)。プレートが撤去されている直線区間が一部ありますが、プレートを見つけながらこのルートを歩いてみるのも楽しいと思います。「みみのオアシス」の近くで、他とは違ったデザインのプレートがありました(写真3)。

6年間で3万5千人に及ぶ人達が参加した「知る区ロード探検隊」などの『杉並「知る区ロード」』プロジェクト。当時、杉並区まちづくり推進課の職員でプロジェクトに携わった木村邦夫さんの著書「すぎまるがやってきた」で、その詳細を知ることができます。本は絶版になっていますが、区立図書館で閲覧・貸出が可能です。



「知る区ロード」全体図



「すぎまる」



写真1

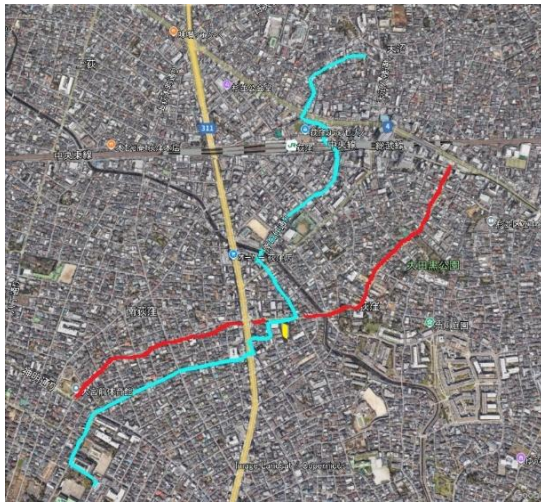


写真2



写真3

図1 青：知る区ロード、赤：荻外荘通り

みみの
オアシス



ときの
オアシス



- 1987 防災まちづくり施策のひとつ「区内を歩いて知るルートづくり」構想において「知る区ロード」が正式名称となる
- 1988 第1回「知る区ロード探検隊」開催、以降毎年夏休みに開催され、1993までの6回で延べ3万5千人が参加
 - 探検用グッズ：探検地図・探検手帳
 - 探検報告：探検隊員が探検隊本部に提出する探検成果
提出した隊員は「探検バッジ」がもらえる
 - たんけん新聞：探検隊員に年4～5回送付
- 1989 マスコット・マーク「すぎまる」誕生
「あいちゃん」というサブ・マスコット・マークも誕生
イベント参加記念品のマスコット・マークをあしらった数々の「すぎまるグッズ（Tシャツ・帽子・ノート・ナップザック・コップ）」登場
- 1989 「すぎまる」をデザインした直径18cm（铸铁製、真鍮製）のプレートを、ルート道路に目印として埋め込む。道路端の雨水枡の蓋も「すぎまる」の図柄入りに。
- 1990 「すぎまるマガジン」創刊、探検報告をもとに翌年春発行
- 1991 すぎまるグッズを購入（交換）できる「すぎまる紙幣（単位：シルク）」発行。翌年、コイン発行

